

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名		佐賀市立昭栄中学校				C：やや不十分である D：不十分である		
1 前年度 評価結果の概要		・夢や目標に挑戦する心の育成・・・講師を招聘した講演会や行事前の目標を記述する取り組みの成果が現れており、今後も取り組みを続けていきさらなる成長に繋げたい。 ・家庭学習の習慣化・・・定期テスト前に設定した「テスト計画作成の時間」により、計画的な家庭学習の習慣が身についてきている。次年度も生徒・保護者に家庭学習の意義を伝え、家庭学習の質の向上を図っていく。 ・特別支援教育の充実・・・校内における講師を招聘した研修を重ねることにより、スキルアップが図られている。次年度は更に実践を積み上げ、学びやすい学習環境づくりをすすめていきたい。 ・地域行事への参加・・・生徒会を中心に校区内の小学校への支援を行ったり、PTA主催のボランティア活動に多くの生徒が参加するなどの取り組みを行い積極的な参加ができた。今後、地域との連携を更に進めていく。						
2 学校教育目標		夢に向かって たくましく 挑戦する生徒の育成 ～ 自律 協働 ～						
3 本年度の重点目標		①確かな学力の定着 ②生徒指導の充実 ③特別支援教育の充実 ④開かれた信頼される学校づくり						
4 重点取組内容・成果指標		5 最終評価						
(1)共通評価項目								
重点取組			具体的取組		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○根拠をもとに説明する力の育成を目指した学習指導の工夫	○「学校の授業などで、自分の考えを他の人に書いたり、話したりして説明できる」と肯定的に回答する生徒の割合を70％以上にする。	・「対話的な活動」を取り入れた授業づくりを全教科で実施し、授業改善を図る。 ・全教科で、根拠をもとに説明する場面を設定した単元づくりを行う。 ・相互授業参観を実施し、多角的な視点から授業改善を図る。	A	・3年間の系統性を考えた「対話活動のSTEPUP図」を教師用、生徒用を作成し、活動のゴールの姿を共有することができた。また、系統性をもたせた「言語活動」を全年度で実施することで、「自分の考えを他の人に説明できる」生徒の割合が81％(R5.80％)と目標を達成することができた。 ・「計画的に家庭学習に取り組んでいる」と回答した生徒は75％(R5.70％)であった。	A	・3年間を通して、対話活動のステップアップを図り、成果指標も十分にクリアしている。子ども達が、自分の考えをはっきりと人に伝える事ができるようになってきている事は、評価できる。	
	○GIGAスクール構想を実現するための体制づくりと実践	○職員へのアンケートを実施し、結果を基に年3回の職員研修を行う。 ○週1回の情報教育部会を実施する。	・学習支援ツールの利活用に関する校内研修の実施 ・情報教育担当によるTeamsの使い方の研修 ・情報教育部会を行い、生徒端末や教師端末をトラブルなく使用できるようにする。	B	・長期休業を利用した職員研修や、情報教育担当職員による公開授業を通して、Teamsやe－ラーニング、スカイメニューといったツールの活用方法を職員に周知することができた。一方で、一人一台端末の使い方について、生徒へ指導する場面もあった。安心・安全に使用できるように、引き続き指導していきたい。	B	・部会で、効果的な使い方が共有されるなど体制づくりは、きちんとなされている。子ども達の学びを先に進めるために、地域企業の力を借りてはどうか。使い方について、生徒に対する指導は課題。	
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした生徒を80％以上にする。	・ふれあい道徳を公開し、道徳教育の充実を図る。 ・いじめ・いのちを考える日や人権集会、研修会を実施する。	A	・道徳教育においては、ユニット道徳を実施した。例えば、1学年ではキャリア学習「職業人に学ぶ」の実施後、道徳科の授業で「勤務」の内容項目を行い有機的な道徳教育を試みた。また、アンケートにおいて、「命の大切さや他人を思いやる心を身につけるように心がけている」と答えた生徒が97％(R5.97％)、「道徳の授業はよりよい生き方を考える上で大切だ」と答えた生徒が93％であった。	A	・新たな取組も含め、しっかりとされ、成果指標も十分クリアしている。道徳の授業で学んだ事が、ちゃんと子ども達が、考えで答えを出すような学びになっている。日頃から大切さを伝えていることが受け取れる。	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「生活アンケート」を月1回実施する。 ○6月と10月に教育相談を実施する。 学校アンケートで、いじめに関する項目で「差別やいじめが無いよう心がけている」と応えた生徒を90％以上にする。	・いじめに関する実態調査を毎月行う。 ・きめ細かな実態把握に努め、いじめの未然防止、早期発見、早期対応を図る。 ・情報交換を密に行い、共通理解を図り、協力体制をつくる。 ・教職員への「いじめ防止対策基本方針」の周知を図る。また、SC・学習支援員・SSWとの連携を深める。	A	・毎月你的生活アンケートを行い、様々な問題の早期発見、早期解決に努めることが出来た。 ・毎学期、生徒会が中心となって、全校生徒が「いじめ追放宣言」を復唱することで、生徒一人ひとりの意識向上を図ることができた。また、ピンクシャツデーの取り組みを行い、いじめ防止や他者への配慮について積極的に考える行動ができた。 ・毎週生徒指導部会を開き、各学年の問題や生徒の様子などについて、情報を共有し、問題の解決を行うことができた。 ・「差別やいじめが無いよう心がけている」と応えた生徒は98％(R5.95％)であった。	A	・先生方が組織的に生徒理解に努め、信頼関係を深める取組がなされている。早期解決について、学校の対応が最善を尽くしていると感じる。子ども達からの自主的な活動も出てきており、それが、仲間を増やし、いじめをなくそうという思いに現れている。ピンクシャツデーの取り組み等、生徒側が活動主体となる工夫が成されている。	
	●◎生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80％以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80％以上	・全ての教科等、学校行事等を通して、夢や目標を提示できる時間や場面を設ける。	B	・様々な教育活動が生徒の夢や目標の実現につながるように、授業だけでなく、学年行事や生徒会活動においても生徒の主体的・協働的な活動の場を増やした。 ・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒は78％、「将来の夢や目標を持っている」と回答した生徒は86％(R5.80％)、「自分の夢や目標の実現に向けて努力している」と回答した生徒は86％であった。	B	・14％の子どもたちは、今はそこに至っていないくても、種をまいたり、夢を見つたりとゆっくりな時間もあったりしていると思う。そんな中で大人の背中をよくみていると思うので、先ずは先生方が夢を持って楽しく毎日を過ごしてほしい。	
	●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の生徒80％以上	・部活動で、体力や技能の向上を図り、心身共に健康な生徒を育成する。 ・体力テストの結果を個人で分析する時間を設定し、具体的な改善・目標を立てさせ実践させる。	B	・運動の活動環境を考慮した取り組みはしっかりと行うことができた。また、授業の中で単元に合わせた体力づくりや生徒自身が主体となって計画したトレーニングも組み合わせで活動を実施することができた。 ・「授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上」と回答した生徒は68％、「体力テストなどで自分の体力を知り、日ごろから体力の向上に努めている」と回答した生徒は73％(R5.76％)であった。	A	・運動部の生徒は到達すると思うが、それ以外は難しそう。授業や部活動以外で体力作りをする機会を作るのが難しい。生徒自身が主体となって計画したトレーニングの実施を推進していけるとよい。近年の夏季期間中運動制限等を考慮して今後はもう少し目標時間を減らしても。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○保健だよりを毎月発行し、食に関する情報発信を5回以上行う。 ○望ましい食習慣について、生徒会と協力し、集会等で情報を発信する。 ○朝食の喫食率は80％以上にする。	・養護教諭と給食担当で協力して、食の自己管理能力の育成に関する情報発信を行う。 ・生徒保健委員会と協力して、全校生徒に発表を行う。 ・生徒会担当と養護教諭と連携して取組の徹底を行う。	A	・毎月保健だよりを発行し、生徒や保護者に食に関する情報や健康に関する情報を発信することができた。 ・生徒保健委員会と協力し、食に関するレポートを作成し、全校生徒に知らせることができた。健康な体作りの為に必要な食事や運動、生活について広用紙にまとめて掲示した。 ・朝食の喫食率は89％(R5.88％)だった。	A	・食習慣に関する情報発信にもしっかり取り組み、成果指標もクリアしている。朝食が89％なのは心配。身体のこと含めて家庭環境など、気にかけてほしい。給食時間にもっと余裕が欲しい。	
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・教職員一人ひとりが担当する業務について、効率化・費用対効果の視点から見直しを行う。 ・業務記録表を使って、業務改善をすめ、月当たり80時間以上の超過を0％にする。前年度比10％減、学校閉庁日の設定 ・部活動休養日の取得率を100％にする。	A	・新しい出退勤システムの導入により、月80時間以上は10月以降は0名。45時間以内勤務については十分には進んでいない。有給休暇の取得率は一人あたり9.3日で偏りはあるが昨年度並みには取得できている。リフレッシュ休暇の考え方も前向きに取り組む職員一人一人の意識改善をすすめていく。また、教育課程の効率的な業務改善についても89％(R5.90％)と高い意識を持って職員は取り組んでいる。	B	・難しい課題に対して改革の推進を図っていると思う。職員の意識改善に取り組む、教職員アンケートにも繁栄している。保護者さん、地域の方々も一緒に効率化を考えて行くべきと思う。	
●特別支援教育の充実	○セルフケア・ラインケア意識の向上	○週1回の定時退勤の割合を80％以上にする。	・全職員が声をかけ合い、状況把握できるように、見える化した定時退勤簿を設置し、週単位で、見直しをもって勤務計画を立てることができるようにする。中間評価までに、定時退勤簿達成率を75％以上にする。	B	・退勤時間が遅くなりがちな職員には管理職から個別に呼びかけ対応してきた。水曜日の定時退勤日について取り組みなかったアンケートに答えた職員は43％と、改善途中である。体育館使用のローテーションにも配慮し年度当初の呼びかけを徹底していきたい。佐賀市の部活動展開についても今後取り組む中で、活動内容の充実を図り、活動時間の見直しが進められるようにする。	A	・定時退勤日が水曜日固定というのは、体育館使用制を考えれば、無理があるのでは。学校だけではないよい方法が求められる。定時退勤も大切だが、先生方の持ち帰りの仕事についても気になる。	
	○特別支援教育の充実	○特別支援教育の視点を取り入れた環境整備に取り組む、アンケートで授業が受けやすい環境であるとした生徒を80％以上にする。	・教科教育充実のために、特別支援学級を全校の時間割に組み込む。 ・特別支援教育に関する全体研修会を開催し、教職員のスキルアップを図る。 ・連絡会や各研修会、特別支援だよりを通して、全職員の共通理解を図る。	A	・毎週、個別の時間割を作成し、生徒が見通しを持って学校生活を送れるようにした。 ・生徒や学校の実態に応じた研修会を開催した。また、校外で開催される研修会にも積極的に参加し、スキルアップも努めた。 ・生徒アンケートで「授業が受けやすい環境である」とした生徒は86％(R5.86％)であった。	A	・時間割、クラス分けをはじめ、生徒一人一人を大切にしている教育実践がなされている。子ども達が、学習活動に参加しやすい体制になっていると思う。	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目								
重点取組			具体的取組		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○生徒指導	○生活指導、教育相談の充実	○不登校や相談室登校の生徒数を減少させる。 ○特別支援を含めた総合的な生徒指導体制づくりを行うため、3回以上関連する協議会を実施する。	・アンケート等を活用し、定期的に教育相談を実施して生徒理解に努める。 ・生徒会活動の充実を図り、教育活動の中に生徒一人ひとりが自己指導力発揮する場を設定する。 ・生徒指導や特別支援教育の支援体制を整備する。	A	・小さな問題行動を見逃すことなく、その都度指導を行うことよって、大きな問題行動を防ぐように努めることができた。 ・不登校や相談室登校の生徒数減少には至らなかったが、教育相談担当、SC、SSW、サポート相談員、別室対応支援員、学習支援員、養護教諭と諸関係機関との連携を密にして、きめ細かい個別指導や支援の充実を図ることができた。	A	・学校全体で取り組む体制づくりがなされている。様々な問題もある中でも、きめ細かい個別対応やサポートの充実など努力されていると思う。不登校生徒の減少を数値目標としてあげることも考えては。	
○環境教育	○「佐賀市学校版環境ISO」認定取得校としての環境教育の推進	○ゴミのない学校の取組を推進する。 ○SDGsを達成するために、ゴミの減量、持ち帰りに積極的に取り組む生徒を80％以上にする。	・生徒集会で「佐賀市学校版環境ISO」認定取得校として環境教育を説明する。 ・SDGsを意識し、各学級でゴミの削減について考え実践する。	A	・生徒会環境委員会の活動を推進することで、「佐賀市学校版環境ISO」の認定更新ができた。また、生徒会を中心にボランティアによるゴミ拾いやプラントの花植え活動も実施することができた。定期的に環境ISO振り返りアンケートを実施し、活動に活かすこともできた。SDGsを達成するために、ゴミの減量、持ち帰りに積極的に取り組む生徒は86％(R5.85％)であった。	A	・生徒とともに推進することを大切にされている。生徒会が中心となり環境教育を説明し、実施する事ができている。多くの生徒が積極的に取り組む事ができた。学校、敷地内もきれいに整っている。認定更新を受けるための努力が見受けられる。	
○小中連携	○中学校校区内の小学校との連携の推進	○児童・生徒・教職員の相互交流の場や交流活動の内容を充実させ、アンケートで、学校が必要に応じた連携を行っているという回答を80％以上にする。	・小中合同の教務主任会議を行う。 ・「小学校6年生への授業体験」「ふれあい学級見学会」などを行い、小中連携をすすめる。	A	・計画に沿って、教務、生徒指導、教育相談、特別支援教育等、各部門において小中連携を行った。 ・特別支援学級見学・説明会、新入学説明会・部活動見学、小6三校交流会などの行事を実施した。 ・保護者アンケートで、「学校が必要に応じた連携を行っている」という回答が85％(R5.83％)であった。	A	・管理職をはじめ、各部門ごとに連携をされている。小学校三校との交流も出来ていると思う。	
●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育								
5 総合評価・次年度への展望		・確かな学力の定着・・・「対話的な活動」を取り入れた授業や「言語活動」を通して、自分の考えを他の人に伝える習慣や力が定着してきた。今後、協働的な学びや探究的な学習活動を柱に、「問い続け、学び続け、挑戦し続ける生徒」の育成を図る。 ・生徒指導の充実・・・組織的な取り組みで、諸問題の未然防止、早期発見、早期解決に努めると同時に、開発的生徒指導（生徒の出番・役割・承認）の視点に立った教育活動を展開した。次年度は、開発的生徒指導の更なる充実を図り、生徒の主体性を育みたい。 ・特別支援教育の充実・・・組織的な体制のもと、生徒の特性やニーズに応じた支援を行うことができた。また、新入学に向けたよりきめ細かな小中連携にも取り組んだ。今後は、インクルーシブ教育の視点に立ち、お互いを理解し、認め、配慮しあえる学校集団づくりも推進していく。 ・開かれた信頼される学校づくり・・・学校理解のために各種便りや学校ホームページ、連絡メール等で情報発信を行った。また、在校生保護者だけでなく、新入学予定者の保護者や地域の保護司や児童民生委員にも来校していただく機会を設定した。生徒会を中心に校区内の小学校や地域でのボランティア活動を計画し、多くの生徒が積極的に参加した。今後、ボランティア活動や行事等、地域の方々との活動をさらに充実させることで、生徒が地域の課題を理解し、社会貢献意識を高められるようにしたい。						